

海上の森の保全と活用を図る 「里山学びと交流の森づくりの取組」の概要

「里山学びと交流の森づくり」の基本的な取組の方向

里山学びと交流の森づくりは、海上の森の特性を活かし、博覧会の成果と取組を継承しつつ、この地の自然、先人の知恵、古からの技術、地域の生活術から学び、幅広い多様な人々が、自ら様々な活動や勤労を通して学習し、参加交流する新しい県民活動の場を提供する。

「里山学びと交流の森」

自然、里山、森林との関わりの探求と活動の場としてのモデルづくり

里山学校の開催 里山保全のネットワークづくり 県民参加のシステムづくり

環境教育・森林学習等の推進とその拠点づくり

環境教育・森林学習の拠点づくり 小中学校の総合学習との連携

取組の普及啓発活動 自然・森林・里山・文化歴史に関する情報発信

循環型社会形成の糸口づくり

ライフスタイルの見直しの取組 循環型社会形成プログラムの作成と普及

ゾーン区分と活用展開

里山学びと交流の森を6区分し、その特性に沿った保全と活用を図る。

| ゾーン区分 | 区 域 | 活用展開 |
|------------|--------------------|--------------------------|
| 施設ゾーン | 拠点施設・ゲート施設一帯 | 自然学習・環境教育 情報提供・県民交流 |
| ふれあいの里ゾーン | 集落・農地を中心とした区域 | 情報提供・県民交流 県民の参加交流のあり方 |
| 生態系保護ゾーン | 屋戸川・寺山川流域及びその北部の区域 | 自然環境の保全 生物多様性の保全 |
| 恵みの森ゾーン | 北側一帯の広葉樹林を主体とした区域 | 雑木林の保全技術の確立 雑木林への理解醸成 |
| 循環の森ゾーン | 人工林を中心とした区域 | 人工林の育成と活用 林業に対する理解醸成 |
| 野鳥・古窯の森ゾーン | 吉田川流域の広葉樹林を主体とした区域 | 野鳥の保護・環境学習 歴史文化学習 |

自然環境保全のための法的な位置づけ

生態系保護ゾーンにおいて、特に自然環境の保全を要する区域については、「自然環境の保全及び緑化に関する条例」に基づく、県の「自然環境保全地域」の指定に向けて検討する。

県民参加のシステムづくり

県民主体による森づくり・里づくりを進めるため、海上の森の運営に携わる県民参加の「里山学びと交流の森づくりの会（仮称）」の設置を図る。

博覧会開催時の活用

県、自主的な活動体及び「里山学びと交流の森づくりの会（仮称）」との連携により、人と自然の関わりを探求する様々な活動プログラムを展開する。

森の地区・森林環境教育学習・森づくり活動・自然観察活動・生態系保全活動など
里の地区・農作業体験・里山保全活動・歴史や文化の探訪活動など

施設整備

拠点施設（県バピリオン一部跡利用）

展示教育・参加交流・調査情報機能をもった施設とする。＜施設規模約1500㎡＞

＜拠点施設 外観イメージ＞



| 階層 | 施設内容 |
|----|----------------|
| 1層 | 展示室・多目的ロビーなど |
| 2層 | 情報ライブラリー・工作室 |
| 3層 | 研修室・会議室・多目的活動室 |

ゲート施設（博覧会時の里山遊歩ゾーンの跡利用）

駐車場・案内所・展望台などを備え、メインゲート 展示・学習エリア 展示林機能をもつ施設とする。

古窯展示保存施設については、古窯を適切に保存するとともに、展示と体験学習機能をもつ施設とする。

現地活動施設（里山サテライト）案内板、トイレ、駐車スペース 等

博覧会後の継続的な取組

里山学びと交流の森づくりの会（仮称）と県との役割分担を明確にし、連携・協働による管理運営体制づくりを推進する。

ゾーン毎の特性を発揮させ、適正に保全管理するため、長期的保全管理方針に沿って、保全活用計画をたて実施する。

博覧会後の継続的な取組

県民参加システムによる森づくり・里づくり

関係機関等のネットワークの推進

ライフスタイルや価値観を見直す取組

自然と共生する豊かさの実感

社会システムへの波及

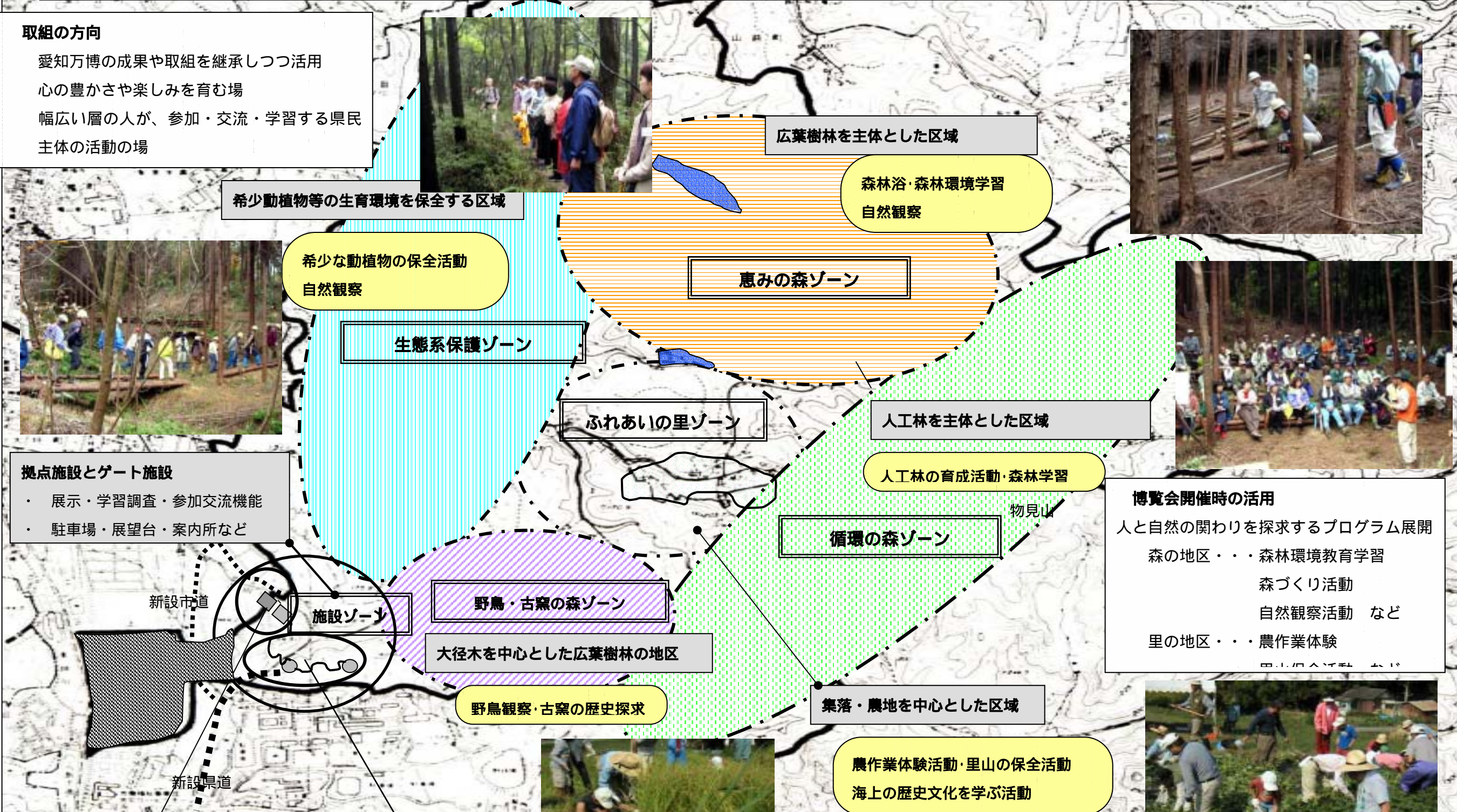
長期的な観点からの取組と活動の継続

「里山学びと交流の森」づくりの保全・整備・活用計画図

理念 里山学びと交流の森づくりは、県及び県民自らが、海上の森の特性を活かし、博覧会の成果と取組を継承しつつ、先人の知恵、古からの技術、地域の生活術から学び、幅広い多様な人々が、自らの活動や勤労を通して学習し参加交流する新しい県民活動の場を提供する。その試みは、海上地区の生活・文化・自然を歴史的に検証・維持すると同時に、海上の森ならではの里山文化を新たに創り上げ、自然と共生することの豊かさが実感できる人間性の回復と、循環型社会の形成の糸口を探るなど、この取組や成果を発信する活動拠点を狙うものとする。

取組の方向

愛知万博の成果や取組を継承しつつ活用
心の豊かさや楽しみを育む場
幅広い層の人が、参加・交流・学習する県民
主体の活動の場



拠点施設とゲート施設

- ・ 展示・学習調査・参加交流機能
- ・ 駐車場・展望台・案内所など

博覧会開催時の活用
人と自然の関わりを探求するプログラム展開
森の地区・・・森林環境教育学習
森づくり活動
自然観察活動 など
里の地区・・・農作業体験

里山学びと交流の森拠点施設

里山学びと交流の森ゲート施設

